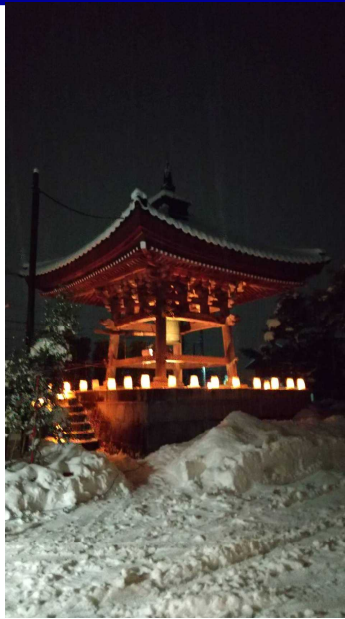


じんかん う
人間に生まれて “つながりを生きよう” 294

私にとって何がつらいかと云われれば

昨年暮れから例年並みの降雪により三十cmから五十cmの積雪がありました。除夜の鐘には、今年も雪行灯をともし、鐘楼堂を引き立てました。おかげで十二時までには百八をつき終わり、翌日を迎えました。



年が明けて修正会は朝六時の早い時間ではありますが、以前は五時から開始していました(以前は着物を着ての参詣だったのでとても苦勞しておられたと聞いています)今年の元旦は穏やかで静かな日でした。

一月三日は毎年初御講を勤めています。鏡如上人からの御消息を拜読し、古文書についてお話ししました。御鏡直しも兼ねています。皆さんからいただいたお鏡と懇志でお鏡を作り修正会にお飾りしましたものを切つて、お参りの方におわけしました。残りは高岡鴨島町の今川いり菓子店さんでポン菓子にしてもらいます。

十六日は、在所の追悼会、午後は城端別院の法物巡回の会場になりました。亡き人、一人一人を偲びながら、思い出を語り合いました。法話に篠川弘一さんは新たにお寺を任されたこと、荒木範夫さんは別れについて篤く語って下さいました。

2月 真敬寺行事予定

- 6日(日) 真宗教室 午後二時
 7日(月) 正信偈の会 午後二時
 11日(金) 定期総会 午後二時
 17日(木) 定例聞法会
 午後 法話 釜田哲男さん
 コロナ感染状況のために
 変更することがあります、ご了承下さい。

一番大切なもの、人を失った時言葉を換えれば分かれた時が一番つらい時でした。
 荒木範夫さん

定例聞法会の聞書

城端別院法宝物御巡回布教

荒木範夫(あらきのりお)さん

石川県金沢市小立野



「地獄一定すみかぞかし」

困った時だけたすけてくれ、と本気でたすけてくれと言っているのなら、全部投げ出してもたすけてくれと言わなければならぬのに、都合のいい事だけ、都合のい

い時だけたすけてくれと言っている自分(われ)がいるじゃないですか？

親鸞聖人が「地獄一定すみかぞかし」と言われたのは、地獄しかないとなった時にはじめて、たすからんというてたすけるんです。

ここが要なんです。簡単にたすけるぞというても、実感がこもらないです。

なんとという身が手な自分だ、どうしたってたすからないんだ、そうなった時にはじめて、力が抜けるのです。

人間とは、どこか、何かを当てにしているのです。それが当てにならない時は、他人の所為(せい)にするんです。何でもかんでもそんなことにごまかして生きてきているのです。

「地獄一定すみかぞかし」とは重い言葉なんです。地獄しかない私を本当に突き落とすだけ突き落として、たすけるのです。

そうでないとたすからんのか。自分の力でまだなんとかなると思っている時は、反省はしても懺悔はしないんです。

懺悔、真実の信心とは、申し訳ないかたじけないと思うところなんです。申し訳ないと頭が下がらない限りは懺悔と言うことは絶対にはないのです。

仰向いて驕っている間は、そんなことわかつとるわい、かまうな、うるさい、いじくらしいと反応している。

それが破れる時はどんなときですか？

本当になんと身勝手やったなあ

申し訳ない、となった時です。

自分(われ)中心にしている時は聞こえてこないのです。

身勝手やったあ、申し訳なかったと頭が下がった瞬間、仏さまのこゝろが届くのです。

だけどそれが続かない、それが現実です、すぐにお出ましになるのが自分(われ)の根性です。だから繰り返すのです。

そうすると、わかってたすかるのじゃなく、聞くしかないのです。聞くしかないことは、毛穴から入ったら、体にしみこむ、わかるうがわからまいが、しみこんだら、大事なことは響き合うので、ちゃんと縁が来れば思い出すんです。

親によく「今にわかるぞ」といわれました、お金のあるもの

がお金のないものの気持ちはわからない、病気でないものに病気の苦しみはわからない。若い者に年寄りの気持ちをおかれと言ってもわからないのです。無理なことです。そうやけれども、その若い者も年を取り親のいつていたことがわかるようになるのです。ああ親の言っていたことはこういうことやったのかと。

理屈でわかってても限度がある、本当にわかったことにならない、だから仏法を聞く時に、「体も心も全体で聞きなさい」と言われるのです。(その場へ身を運んでしみこむのです)

体はなんのほからいもないのですよ、自分の都合ではきいていないのです、体が覚えている、

体がきいてきた。

頭がやつかいで、自分の分別の知恵で聞くので、やつかいなのです。

自分でどうにかするのではないのです、そういうことになっていることにおさめとられていくのです。

全部撮(おさ)めて、捨てません、見捨てません、ちゃんとその中に生きています。

ただひたむきに、人間が一心不乱といっても間に合わないのです。私にはまことの心はありません、ふかく信じる心もありません(都合のいいことばかりを信じます)あるがままにはかからないところに本当は賜っているのに、背き続けている私です。

佛さまが、それに目覚めて欲しい、あらゆるものを通して気づきを与えておられる。なぜ私にそのことがわかるかと言えば佛さまの真実に触れて私のこころが見えてくるからです。

南無阿弥陀仏は佛さまの真実(まことのこころ)であり、佛さまの信心であり、佛さまが浄土を用意して摂めようとして下さるはたらきなのです。

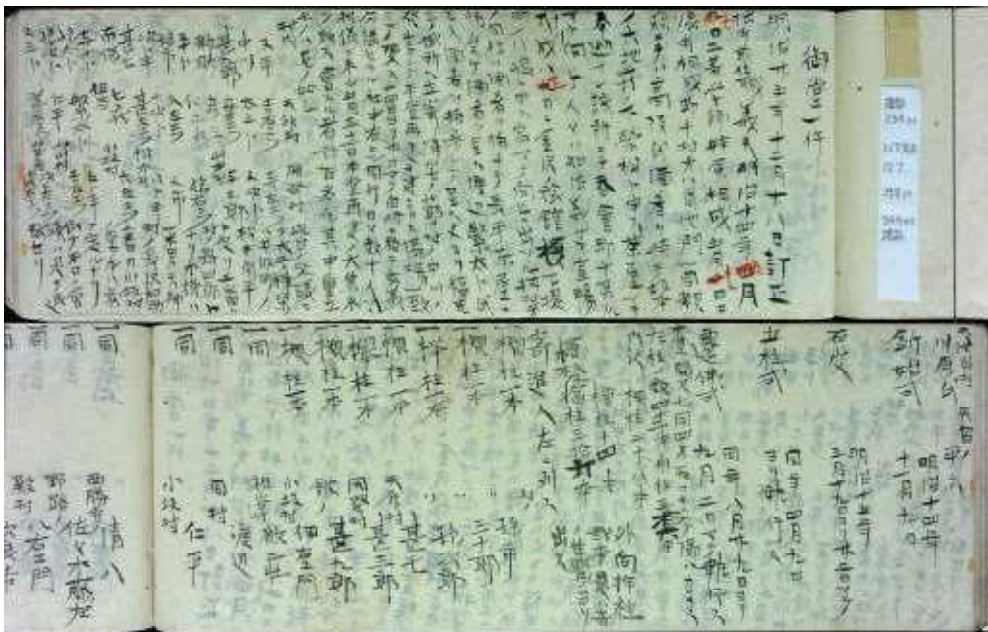
あなたに真実の心があるならやってみなさい、願えるものならやってみなさい。出来るなら浄土へ行けますよと書いてあるのが観経。

どうにもならないことに気づかされたら佛さまが念仏申せと用聞かせて下さっているのが一心不乱にひたむき(直向き)になつて下さる佛さまの行(ぎょう)なのです。

南無阿弥陀仏と聞かせて下さるのです。煩惱の身のままにすぐわれていくのです。

先月の行事から

- 一月一日 修正会
- 一月三日 初御講
- 一月十七日 定例法話
- 一月十八日 正信偈の会



毎月の正信偈の会同朋新聞拝読の後に古文書の整理、写真撮影しています。上の文章は十四代住職大成が残したと思われるものです。

明治の御堂再建の様子が書かれてありました。一月三日の初御講で改めて読み返してみました。

発行 〒939-1664富山県南砺市竹内440



ホームページを開設しました

真宗大谷派(東) 小塚山真敬寺 宮地修

0763-52-0196 携帯電話090-3760-5692